

水の東西

第一段落

■日本人にとっての「水」の姿

□「鹿おどし」の特徴

①「愛嬌のなかに、なんとなく人生のけだるさのようなものを感じる」

②「くぐもった優しい音をたてる」

③「単純な、緩やかなリズムが、無限にいつまでも繰り返される」

□筆者の発見・考察Ⅱ逆説的表現

①「曇った音響が時を刻んで、庭の静寂と時間の長さをいやがうえにも引き立てる」

②「それをせきとめ、刻むことによって、この仕掛けはかえって流れてやまないものの存在を強調している」

第一段落

- 「鹿おどし」

流れる水

自然に従って上から下へ流れる水
日本人をひきつける水の姿

- 「噴水」

噴き上げる水

自然に逆らって下から上へ噴き上げる水

西洋人をひきつける水の姿

□ 対比的表現①

流れる水（空間的）と、噴き上げる水（空間的）

第二段落

■西洋人にとっての「水」の姿

□「噴水」の特徴

・「鹿おどし」（第一段落から）

「時間的な水」

（刻まれる音によって時の流れを感じさせる水）

・「噴水」

「空間的な水」

空間に静止している造型としての水

□対比的表現②

時間的な水（時間的）と、空間的な水（空間的）

第三段落

■日本人と西洋人の「水」に対する
感じ方・考え方の違い

□主題へとつながる疑問

日本の伝統のなかに噴水が少ない
のはなぜか？

□筆者の考察

日本 噴水が少ない

・外面的理由

空気が乾いていない／水道技術が発達していない

・内面的理由

造型の対象ではない

西洋 噴水が発達

・外面的理由

空気が乾いている／水道技術が発達している

・内面的理由

造型する対象

第三段落

□本質的理由

日本人は西洋人と違った独特の好みを持っていた

・日本

積極的にかたちなきものを恐れな
い↓見えない水

・西洋

自分の意図する形に造型し鑑賞す
る↓目に見える水

□対比的表現③

見えない水（精神的）と、目に見
える水（空間的）

第四段落

■日本人独特の感性

□日本人の独特の感性（第三段落から）
＝積極的にかたちなきものを恐れない

□筆者の考察＝日本人にとって水を鑑賞することは、流れを感じることに

□水の鑑賞に必要な行為（第三段落から）

・滝・せせらぎ

水を造型しない／水の流れを見る

自然な水の流れを見ることが水を鑑賞

・噴水

水を造型する／水の造型を見る

二つの行為が必要

第四段落

□水の鑑賞に必要な行為

・鹿おどし

水を造型しない／水の流れを見ない
ただ、音を聞いて心で鑑賞するだけ

□「鹿おどし」は、日本人が水を鑑賞する行為の極致を現す仕掛け